

平塚八兵衛さんの思い出

平塚八兵衛氏は大正2年生まれ。私の伯母(実母の姉)も同年生まれで、現在104歳で健在である。よって、古い史実ではない。彼は地元の土浦中学(現・土浦一高)を卒業後警視庁に入り、昭和14年に鳥居坂署を振り出しに、昭和18年、捜査一課勤務、その後、数々の難事件と取り組み、巡査部長、警部補、警部、警視と無試験で昇任、昭和50年3月に勇退し、昭和54年に66歳で死去している。

「吉展ちゃん誘拐事件」は昭和38年3月31日(東京五輪の前年)発生で、今から54年前になる。彼がこの事件の捜査に関わったのは約2年後の昭和40年5月12日からこのことなので、51歳の時である。

当時、私は水戸警察署の刑事になっていた。東京五輪の後、昭和40年7月、吉展ちゃん誘拐事件が解決となり、大きく報道され、平塚八兵衛刑事の名も有名になった。翌年、私は捜査主任に昇進して土浦警察署へ転任し、同市内に彼の実家があることを教えられた。その頃、刑事として名高い彼を模範としたい、実力的に少しでも近づきたい、と願ったものである。その後、彼はさらに高名となり、伝説の刑事となった。いったい。

昭和51年頃、私が笠間警察署に勤務しているとき、官舎の近くのアパートで殺人事件があり、退職後の平塚八兵衛氏がマスコミ関係者と取材に来たことがある。門の前にいた私の妻は平塚氏に質問されたが、すでに日数が経っていたので、妻が「もつと早く来ればよかったのに！」と言うと、彼は「奥さんが殺されたときはすぐ来るから」と言い、お互いに大笑いしたと言う。初対面の人にもそのような冗談が通じる人柄だったようで、それが聞込みや取調べにも役立つていたのかもしれない。結局その3年後ほどに彼は亡くなっており、私と妻は今なお健在で、その当時生まれた息子も40歳を超えている。



菊池興安(きくちこうあん)

昭和12年生まれ。水戸市出身。水戸一高卒。昭和34年茨城県警に採用され、交通勤務から刑事となり、関東管区局指導官、警察署長など多くの要職を歴任し退職。文筆活動も精力的に行い日本ベスト・エッセイ集に二度入賞するなど多くの著作がある。「事件捜査のこぼれ話」「あんこう刑事の鑑識事件簿」など。現在も日刊警察新聞「警察の灯火」などに連載中。茨城新聞社客員論説員。